

ORIC NEWS

翔飛 ひしろう

入居者紹介

ビタCハニー

高濃度プロビタCゲル

PROVITA AA-2G

PROVITA AA-2G

アスacol美

プロビタC

ルイボSC

シー(C)トルズファミリー
(アスacolバイオ研究所キャラクター)

お父さん アスコちゃん シーくん お母さん

ハーバルアクアC

株式会社アスacolバイオ研究所
RscorBio lab

詳細は7ページをご覧ください

一本号の主な内容

- 巻頭言
- 年度総括
- 研修・交流会活動
- 入居者紹介
- 新入居者紹介

「カオスの交わりと事業創成」

岡山リサーチパークインキュベーションセンター
センター長 谷口 人文



世界中の殆どの企業は、事業創成の「夢」を持った1人または数人による「創業」という行為から出発しています。岡山リサーチパーク インキュベーションセンター（ORIC）はこのような創業あるいは既存企業に於ける第二創業を志す人たちに、安価な入居費を含めた様々な事業創成支援をする岡山県の施設です。

さて新規事業テーマはどの様にして組み上げていけばよいのでしょうか？まずは自分が誇るべきスキルがある場合これをよりどころとしたテーマ設定をする人が多いと思います。テーマ設定をするにあたっては、ビジネスフィールドの絞り込みが重要です。最近のビジネス書を見ると、「環境・エネルギー」「医薬・介護・健康・子育て」「ファッション・コンテンツ・食・観光」「宇宙分野」「インフラ分野」などのキーワードが良くみられます。加えて平成28年度国家予算案には「IoT (Internet of Things)」「ロボット」「人工知能」などの推進が「緊急に実施すべき対策」としてクローズアップされており「車産業」がないではないか？と思われる方もいるかと思いますが、実は別の切り口で「IoT」「ロボット」「人工知能」等による「車産業の変質」が企図されていると思います。このように新規事業創成にとって重要であるビジネスフィールドの概念は、もはや従来のものと全く異なる切り口による分野の設定あるいは創出が必須と思われる。

話は変わりますが、今日ほど「価値観がカオ

ス（混沌）状態にあること」を認識することが必要な時代は無いように思われます。最近の流れを見ると、例えば「計算機」であったパソコンは「マルチメディア媒体」に変貌し、今では「携帯電話」と一体となった「各種サービスのインターフェイス」に進化しました。単なる「計算」や「通信」からさらに高次元のサービス提供媒体になったのです。潜在的顧客ニーズの発掘または創出は、従来の思考からはみ出た「一見無駄に見える知」の力によって作られるカオスの中から実現できる部分が多いと思います。別な言葉を使えば「1 + 1」の解をできるだけ多数にする事と思います。「知」には実に多くのものがあります。「技術知」「経済知」「法律知」などが世の中の価値や経済活動を定める「必要知」でありました。その陰でともすると「哲学」「文化」「宗教」「芸術」「スポーツ」などの「知」は、一見役立たずに見えることもありましたが、成熟社会においてはこのような「一見無駄に見える知」による思考が新たな価値形成にとって不可欠なのではないかと思えます。これからは感性と技術のカオスの交わりによって導かれる様々なチャンスをいかに捉えるかが新規事業創出のカギになると思います。

そして何よりも「自分が惚れ込む」「自分が信じられる」テーマをカオスの交わりから抽出して次世代の価値創出をされることを、切に祈ってやみません。

ORICも微力ながら応援させていただきます。

年度総括

■ 2015年度 ORIC及び入居企業・卒業企業の活動

1. 【入居および卒業企業数】

2003年4月の開所から2016年3月末（2015年度末）までに、延べ118者の企業、個人が入居しました（ものづくり系：73社、IT系：45社）。2015年度の新規入居は7者でした。このうち4者がすで

に法人を設立しております。

一方、これまでに92者が退去しており、そのうち50者は、「卒業」(*1)と認定しています。2015年度の退去は3者でした。

2016年4月1日には26者が入居しており、このうち2者は特別許可者(*2)です。業種分類では、ものづくり系:19者、IT系:7者となります。また、これら26者で、全56室中38室を利用しており、入居率は67.9%です。このうち、創業企業(*3)は15者です。また、創業5年以内の企業数と企業設立を目指している個人を合わせた数は14者となり、全入居者の53%となります。さらに、創業後10年以内の企業まで含めると17者(65%)になります。

*1:卒業:ORIC入居中に所期の目的を達成したり、入居期間を満了した企業

*2:特別許可者:県が行う事業に参加する者として入居を許可された者

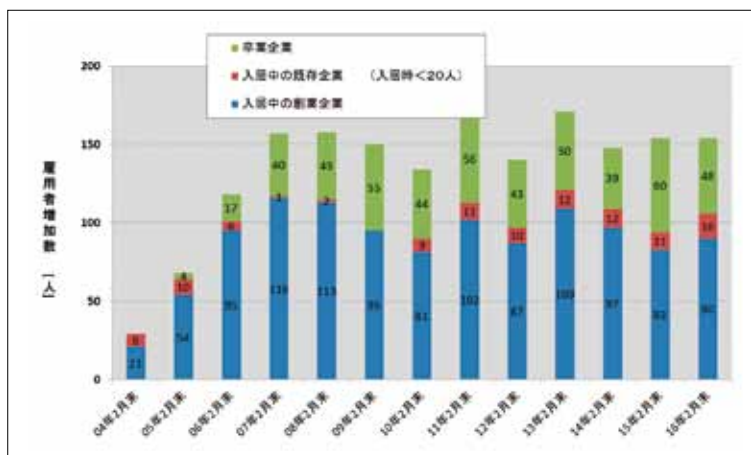
*3:創業企業:ORIC入居に前後して会社を設立した企業

2. 【雇用の創出】[2016年2月末日現在]

ORICに入居中の企業と卒業企業が、ORIC入居後に創出した雇用者数は、創業企業が90名、既存企業(*4)が16名、卒業企業が48名でした。なお既存企業については(卒業企業も含めて)、ORIC入居後の純増をカウントしています。

昨年の2015年2月末と比して同数でしたが、中身を見ると2016年2月末は前年に比して入居中の創業企業の雇用創出人数が増加し、他方卒業企業に関しては減少しました。入居企業数の増加が原因の一つに挙げられます。

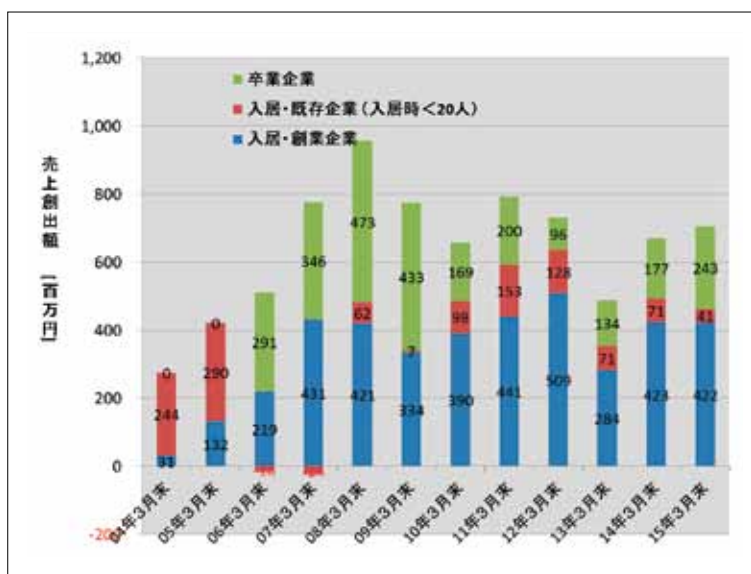
*4:既存企業:入居時の雇用者数(常勤役員を含む)が20人以下の企業



3. 【売上の創出】[2015年3月末日までのデータを集計]

売上高については、決算の集計等の都合で、2015年3月期までの決算データを用いています。2008年以降売上減少傾向が続き、2013年3月期に大きく落ち込みました。これは2008年3月期から2013年3月期の間において卒業企業のデータが減少傾向にあったこと及び入居・創業企業数が減少傾向に転じた事が主な原因とおもわれます。入居・創業企業および入居・既存企業の合計売上創出額は、2013年3月期に落ち込みましたがその後は概ねそれ以前の水準に回復し、2015年3月期も前年と同様の売り上げ創出となりました。

2015年度全体の集計は、来年3月にまとめる予定ですが、一層の入居企業の売り上げ増を期待しております。



4. 【メディアへの掲載】

メディアへの掲載は、企業名や商品の知名度向上に大きく寄与するため、創業支援活動の中で重要な位置づけにあります。2015年度は、合計25件で、昨年比で増加しました。2015年度は2014年

度に比べに入居企業関連記事の掲載が増加したことが特徴です。

	07年度		08年度		09年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度	
	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌	新聞	雑誌
入居企業	25	27	32	26	29	25	25	17	35	23	20	4	21	7	8	1	12	1
卒業、退去企業	0	3	1	2	5	10	0	6	3	1	3	7	8	4	4	1	5	3
ORIC関連	3	4	9	2	7	5	6	9	3	3	0	0	3	0	2	3	2	2
合計	28	34	42	30	41	40	31	32	41	27	23	11	32	11	14	5	19	6
新聞、雑誌合計	62		72		81		63		68		34		43		19		25	

(スタッフルームにてコピー保管分のみ)

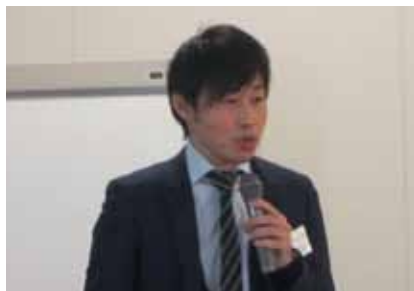
研修・交流会活動

■ 平成28年1月度ORIC交流会・セミナー

● 入居者紹介

「免疫分析研究センターの事業紹介と新しい検査サービス事業の取り組み」

免疫分析研究センター(株)



同社の大熊マネジャーより掲題の話がありました。

癌の免疫療法を研究する会社として津山市で創業しましたが、事業譲渡により山田養蜂場グループに入り、現在は病気を予防するビジネスを展開しています。主に、受託試験サービスとしてメーカーからサプリメントなどの有効性試験とマーケティング調査を受託しています。これは約3,500名の登録モニターと済生会病院と協力して検査解析などを行い、その結果を依頼企業に報告するものですが、昨年4月から始まった「機能性表示食品制度」に

より依頼件数が増加しています。

次に、「テロメア長検査」と「STRT（サーチェイン）検査」を新しい検査サービス事業として予定しています。これは癌、免疫、寿命が患者が金を出しても受けた検査項目であることがマーケティング調査で判明したためです。両者はそれぞれ「命の回数券」、「長寿遺伝子」などと呼ばれ、患者の寿命・疾患などとの関連が分かっています。この検査結果をもとに食習慣、運動、睡眠についてアドバイスできるようになります。

この新しい検査サービスは病院が自由診療として提供することになりますが、将来は病院を介さず郵送で個人が検査を受けられるようにしたいと考えています。それには採血の量を大幅に減らすなどの課題解決が必要となります。

(個人が採血する問題に対し、次のセミナーのテーマがヒントになったようで、大熊マネジャーと(株)ライトニックスの福田会長との面談がセミナー終了後セットされました。)

● ORIC セミナー

「痛みの無い蚊の針の模倣（バイオミメティックス）から微細注射針の商品化」

～人と環境にやさしいモノづくり：ごみの形を残さない医療機器の実現～

(株)ライトニックス 取締役会長 福田光男 氏

1月度のセミナーでは1月18日に(株)ライトニックス取締役会長の福田光男氏から掲題のタイトルで講演して頂きました。福田氏は大手化学メーカー、医療器械メーカーを経て平成15年に(株)ライトニックスを設立され、掲題の低侵襲性注射針の開発と製品化に従事されてきたとのこと。セミナーでは日本が医療機器輸入超過国であること、発展途上国では廃棄注射針を子供が集めて再利用されているなどの現況、使い捨ての生分解性ポリマーを使った低侵襲性注射針の安価な供給の必要性など、事業化を取り巻く環境について触れられました。そのあとで蚊の針がなぜほとんど無痛なのか



についての科学的な検討内容の概要を説明され、針先の形状をバイオミメティックに蚊の針の形状に似せて作れば低侵襲性を実現できるとの結論に至ったそうです。また製品化に向けては針の製造工程の品質管理のみならず、完全使い捨て構造で二次感染を防ぐような「滅菌保障した完全個包装」プロセス開発の大切さを強調されました。開発の御苦勞談の後、薬事法の認可取得における体験に基づいた「早期取得へのノウハウ」の一端を教えてくださいました。「あなたは何ができて、何がしたいのか」を決めたうえで

「なぜその医療機器を開発するのか」を明確にすることが、とても大切であるとのことでした。患者さん・医療現場の要望や医療現場のコスト意識（院内感染、再使用によるウイルス感染、医療過誤等の防止に繋がる技術開発）への対応をしながら更なる事業拡大を目指すとのことでした。

■ 平成28年2月度ORIC交流会

●入居者紹介

「国際回線『VPN』のご提案」 (株)ボイパックジャパン

同社の代表取締役社長の稲葉多吉氏より、掲題のタイトルでお話いただきました。同社は独自に開発した技術に依る格安・高品質国際電話サービスの提供を目的とし2004年に創業され、当時高価格であった国際電話料金に対するソリューション提供という、当時の通信環境へのマッチングを追い風に2010年頃まで順調に売り上げを伸ばしてきたとのことでした。その後スカイプなどに代表される新規国際コミュニケーション技術が次々と現れ、同社の国際電話サービスは忽ちアゲインストの風に見舞われるようになり、喫緊の新規技術サービスの開発と商品化が必須になったとのことでした。そして稲葉社長の思いである「地域密着より国際市場に」「物販よりサービス提供を」そして「メンテフリー商品提供を」という点をベースに、新たなサービスである「VPN (Virtual Private Network)」を利用した国際回線サービスを開発されたとのことでした。このサービスの大きな特長の一つは、国外（たとえば中国）において、強い規制がかかって実質的にほとんど国外からアクセスできない日本のネット情報に対して、同社のサービスを利用する事により安全・簡単に日本のネット情報にアクセス可能になる点です。とくに既存のサービスは「低速」「フリーなアクセスが不能」「高価」などの制約がありましたが、同社の技術はこれらの欠点を克服し「安全に」「安価に」提供できるとのことでした。また合わせてソフト、サポート体制とも多言語対応（日本語、英語、中国語）可能とのことでした。導入は極めて簡単で各端末に接続情報を埋め込めば工事不要で使えるようになるとのことでした。無料のお試し期間を経て本契約に至った人の割合は約半分でありその機能がいかにニーズにマッチしているかを表しているように思います。同社の新サービスがアジア圏はもとより国際的なコミュニケーションの質の向上とビジネスにおけるコストダウンに寄与することが期待されます。



■ 平成28年3月度ORIC交流会

●入居者紹介

「食を介した『循環型社会の構築』に向けた取組」 食創・エンジニア研究所

須田代表から、循環型社会構築のために、取り組もうとされている事柄について、発表がありました。

活動の理念としては、①慣行農業を無農薬、有機の農業に転換すること、②6次産業化と地域農業の再生、③農業後継者の人材育成、④人口の安定化と利他主義、とのことでした。



この理念から、現在企画している事業内容としては、①これに関係する商品開発、メニュー提案、②健康料理の提案、③食育セミナー、④農業中心の循環型社会の事業展開、とのことですが、④については、共同事業者とコンセンサスができていない状況にあるとのことで、具体的な説明はありませんでした。

須田さんの興味の対象としては、「予防医学」により、病気にかかりにくい身体をつくる、そのために医学、栄養、運動、健康調理、生産者（素材）の総合力が必要で、それにより自然治癒力を高めることです。

また、概念として、「健康フランス料理」を提唱され、食塩を使わない、あるいは、精製塩からミネラル塩への変更、使用する油脂の選択、添加剤・保存料・化学物質の不使用などを考えているとのことでした。

現在の日本には、健康を妨げる様々な要因があり、例えば患者や予備軍の人数が多い糖尿病には、水、空気、栄養が大きく係わっていると考えています。特に水道水は、川の水の汚れにつれて、塩素を多量に投入する必要がありますが、塩素を含む水道水を沸騰させると、ガン化のおそれのあるトリハロメタンが増加するとのことで、なるべく水道水は沸騰させない方が良いとの意見でした。

このような懸念点を除く為に、化学調味料を使わず、健全な食品加工のものをを用いた「健康フランス料理」を目指したいとのことでした。

■ 「モノづくり」みえる化セミナー



岡山リサーチパークインキュベーションセンター（ORIC）では、2月13日（土）に一般市民のモノづくり気運を醸成するため 森守氏、津田英之氏 を講師に交流サロンでセミナーを開催しました。

セミナーは“モノづくり気運の醸成”を目的としていますが、併せて、ORICを多くの皆様に紹介すること、ORICの利用希望者を発掘すること、も目的とした開催でした。

セミナーは2部構成としました。

セミナー1部では講師の森守氏の商品開発の過程を具体例として紹介していただきました。テレビや雑誌で取り上げられた「マグネット付テープカッター“ムーベタ”」商品化での体験を基に、発想～試作～商品化～展示会出展～販路開拓～販売の流れを一通り説明し、間にスケッチの描き方や図面などの表現方法～知財、発注方法などを織り込みながらのご説明でした。

森氏としては、体験やエピソードを交えながら、自分の発想を具体化し世の中に提示する“モノづくりの

ワクワク感”をお伝えしたいとの思いからの講演でした。

セミナー2部では3Dプリンターを使ったモノづくりの手法を紹介しました。

市民レベルのモノづくりの手法として3Dプリンターが取り上げられることが多いですが、実物を見たことがない、自分の発想を3Dプリンターでどう実現させるのか、などの解決を目的に講師の津田英之氏から説明がありました。

3Dプリンターの実演と3Dプリンターを動かすためのパソコンによるモデリングを見ることで、なぜ3Dプリンターがモノづくりの手法として話題になるか実感できたと思います。

30名を超える参加者がありました。併せて、ORIC見学会も開催しました。

モノづくりに興味はある、アイデアはある……が具体的に何から始めるのかわからない。

自身のアイデアについて意見を聞きたい。サポートが欲しい。

などの悩みをお持ちの方、モノづくりのきっかけが欲しい方、……に参考になるセミナーであったと思います。

株式会社アスコルバイオ研究所

代表者 代表取締役 山本 格

連絡先 岡山県岡山市北区芳賀5303 ORIC内 301、302、309、310号室

TEL 086-201-0325 FAX 086-286-9880

URL: <http://www.ascorbio.co.jp/> E-mail: center@ascorbio.co.jp

<事業内容>

岡山大学発ベンチャー「アスコルバイオ研究所」は2004年9月に創業。山本 格（薬学部教授）が代表取締役に就任。翌年3月山本の定年退官にともない、同年4月ORICに入居、3名の社員と3名の部外取締役とともに開業。

山本らは予防医学・医療分野における長年の研究を基盤に「安定・持続型ビタミンC誘導体（L-アスコルビン酸 2-グルコシド、AA-2G）」を創製。AA-2Gは酸化に強く体内で酵素作用によりビタミンCとなる有効性の極めて高い新しいビタミンCとして認められ、医薬部外品及び食品添加物として認可された。また国内外特許も取得。

開業初年度には、AA-2Gを配合した美と健康をサポートするビタミンC加工食品「プロビタC顆粒」（栄養強化、保健機能食品）を商品化、販売を開始した。その後10年間に、AA-2Gを配合した弊社ブランド製品「高濃度プロビタCゲル」、健康茶「ルイボスC」、抗菌消臭剤「ハーバルアクアC ミストスプレー」、美容液「アスコル美」等を商品化。また、剤型の異なる（ゲル、顆粒、錠剤、チュアブル、カプセル等）多数のOEMサプリメントを製作・販売。

また「ビタミンCの健康維持と疾患予防」及び、ガン治療及びアンチエイジングのための「高濃度ビタミンC点滴療法」をテーマにした講演会を通じてビタミンCの啓発活動を実施。

<最近の主なテレビ紹介・受賞・特許>

①TBSテレビ「がちりマンデー（平成24年8月19日放映）」にて、弊社ビタミンC誘導体（AA-2G）が紹介された。②第4回ものづくり日本大賞（優秀賞）受賞（経済産業省・文部

科学省等）（平成24年2月29日）。③高浸透性ビタミンC誘導体「6-アシル-AA-2G」（特許登録）（平成24年4月27日）。

<施設紹介>

一方、当社では食と運動の拠点として①安心・安全をモットーに吟味した食材のみを提供するカフェ・ギャラリー&レストラン「C`café」及び②足腰を鍛え、俊敏性を高めることにより、老化防止に貢献するため「サンノゼの丘テニスクラブ」を設置、運営・管理し、認知症対策、ガン、心疾患等生活習慣病の予防対策に取り組んでいる。

<高浸透性ビタミンCの紹介>

AA-2Gを更に飽和脂肪酸で分子修飾し、皮膚への浸透性を高めたビタミンC誘導体「6-アシル-AA-2G」の創製と特許取得に成功。現在その工業的製法と化粧品、再生医療、移植医療への応用的研究を大学及び他企業との共同で実施中。

<テニス大会&美魔女会の開催>

高齢者テニス仲間が集まり運動する喜びを健康増進に繋げることを目標に掲げ、定期的にテニス大会を開催。また、35歳以上の女性をターゲットに美しく賢く自己管理も出来る「美魔女」を育てるための「美魔女会」を定期的に開催。

<今後の研究と事業展開（2016年度）>

①当社ブランド商品の拡大（チュアブルタイプ「プロビタC」、スティックタイプ「ルイボスC」、プレミアム「アスコル美」）など。②東京ビッグサイト展示会等への出展。③FM岡山での定期的出演。④6-アシル-AA-2Gの大量製造法の確立。⑤山本格著「博士の愛したビタミンC」などの出版事業。

第50回入居審査会と「おかやまベンチャービジネスプランコンテスト2015」の最優秀賞の特典により新たに2者の入居が決まりました。

入居者名	事業概要	所在地	分野
(株)ハーバー研究所	・化粧品、栄養補助食品などの事業に、より競争力をつける為に、製造プロセスの改良開発を推進する	東京都	ものづくり
(株)スーパーワークス	・住宅メーカー・工務店の顧客向け図面を3D技術を用いて立体図面化し、ビジネス推進への新たなスキルを提案する	岡山市	IT

入居者募集中!!



センターでは随時入居のご相談に応じています。
お気軽にお問合せください。

Tel 086-286-9116

■ 施設使用料・空き室状況

(2016年4月現在)

施設区分	面積	使用料の月額	減額後の使用料※	部屋数	空き室数
研究室小	約 25 m ²	46,280 円	23,140 円	22	8
研究室大	約 50 m ²	90,510 円	45,255 円	28	9
試作開発室	約 100 m ²	180,000 円	90,000 円	6	1 (工事により使用不可)
創業準備室	5 m ² /ブース	5,000 円		6ブース	6ブース

※創業5年未満の企業及び個人は、入居後3年間は減額になる制度があります。

■ 次回募集

原則として3ヶ月ごとに入居審査会を開催しています。
次回は5月末までに事業計画書を提出された方を対象に、6月中に開催の予定です。
(創業準備室の募集は随時受付けています。)
詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.oric.ne.jp>